

虹のかけ橋

兵庫県立但馬やまびこの郷

<http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>

教室でできる関係づくりの「王道」ステップ その2

名城大学 教授 曾山 和彦

本稿では、愛知県刈谷市立依佐美中学校（以下、依中）の実践をもとに整理した「関係づくり3ステップ」を具体的に紹介します。

＜関係づくり3ステップ＞

1. 「一枚岩」の体制をつくる
2. 「関係づくりの花火」を打ち上げる
3. 「関係づくりの火」を灯し続ける



ステップ1：「一枚岩」の体制をつくる

ステップ1は、全教師が思いを一つにして子どもに向き合う体制をつくりあげることです。体制づくりの大切さは私たち教師の誰もが理解していますが、一方でその難しさを感じる場合も多くあります。依中も初めから「一枚岩」だったわけではありません。それぞれ異なる思いをもつ「岩」が、時にはぶつかって砕けたり、積み上げられ、磨き上げられたりしながら「一枚岩」になっていきました。「学校が一枚岩になるポイントは何か？」……依中の実践から学んだのは次の5点です。

- ① 常に「チーム〇〇」と意識付ける
- ② 管理職、ミドルリーダーが自ら「して見せる」
- ③ 目的達成に向けた手段は「シンプル・面白い・ためになる」ものとする
- ④ やると決めたことは全員で徹底する
- ⑤ 外部の専門家を活用する



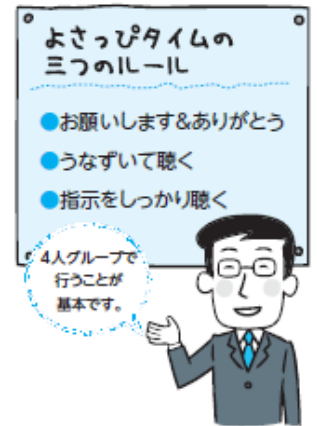
ステップ2：「関係づくりの花火」を打ち上げる

ステップ2は、週1回、構成的グループ・エンカウンター、ソーシャルスキル・トレーニング等を活用した短時間グループアプローチ（Short Time Group Approach。以下、STGA）を行うことです。依中ではこのSTGAを毎週月曜の5時間目開始前の10分間で設定し、全校一斉に展開しました。「アドジャン」「二者択一」等のゲーム性の高いエクササイズ（演習）に、3～4人のグループで取り組むことを通して、自尊感情やソーシャルスキル育成をねらった「関係づくりの打ち上げ花火」です。この「花火」は、基本的には、1ヶ月間同じものを打ち上げます。1学期に打ち上げた「花火」は、2、3学期にも打ち上げるため、年間数種類の「花火」の準備で済みます。それ故、教師が負担を感じることはほとんどありま

せん。また、毎週、グループを替えて行うことで、子どもたちの「アドジャン、飽きたあ〜」という声を抑えられます。さらに、ルール説明が最初の1回目だけで済むため、回数を重ねるにつれ、子どもたちは見通しを持てるようになり、活動がスムーズになっていきます。短時間かつゲーム的な活動ゆえ、かかわりが苦手な子どもにとっても負担感なく取り組むことができます。参考文献に依中の STGA : 「よさっぴタイム」の詳細を紹介してありますので、是非ご覧ください。

ステップ3 : 「関係づくりの火」を灯し続ける

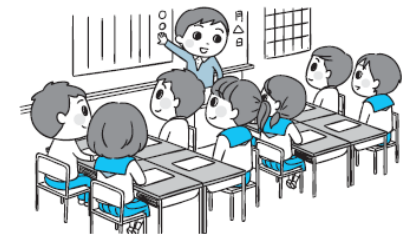
ステップ3は、打ち上げた「花火」が消えないよう、各教科等の授業におけるペア・グループ活動を導入することです。依中では、それらの活動を行う際、「よさっぴトーク」と声をかけることで、日頃のよさっぴタイムで大事にしているかかわりのルール・ポイントを意識させ、自尊感情やソーシャルスキルの育成・向上につなげています。依中の先生方から届いた「話を聴くスキルが育ってきており、授業がとてもやりやすい」「男女が自然な形でかかわりをもっており、お互いを認め合う空気がある」等の声に、生徒の変容を見て取ることができます。かかわりの力が育ってきている依中の生徒であれば、今後の授業改善の方向性として国が示している「主体的・対話的・深い学び」が展開できることでしょう。今後の授業実践がとても楽しみです。



☆ 「関係づくり」実践校紹介

私の現在の研究協力校を以下に紹介します。各校の先生方と共に実践を整理・検証し、教室でできる関係づくりの「王道」(正攻法の基本型)を創り上げたいと考えています。

- ・鳥取県鳥取市立桜ヶ丘中学校(大規模校)
- ・愛知県西尾市立一色中学校(大規模校)
- ・愛知県春日井市立西山小学校(中規模校)
- ・愛知県西尾市立吉田小学校(中規模校)



<参考文献>

- ・教室でできる関係づくり「王道」ステップワン・ツー・スリーⅡ。曾山和彦。文溪堂

※イラスト：ねこまき(ミュージックワーク)

◆◆筆者紹介(曾山 和彦/そやま かずひこ)◆◆

群馬県桐生市出身。東京学芸大学卒業、秋田大学大学院修士課程修了、中部学院大学大学院博士課程修了。博士(社会福祉学)東京都、秋田県の養護学校教諭、秋田県教育委員会指導主事、管理主事、名城大学准教授を経て、現職。学校心理士。ガイダンスカウンセラー。上級教育カウンセラー。学校におけるカウンセリングを考える会代表。著書に「時々、「オニの心」が出る子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキル・トレーニング」「教室でできる特別支援教育 子どもに学んだ『王道』ステップ ワン・ツー・スリー」編著書に「気になる子への支援のワザ」ほか多数。

「不登校に関する研修会」～未然防止、予防的視点から～

「本人の気持ちを大切にしながら」



【講演】 鳴門教育大学
准教授 小倉 正義 先生
8/9 県立淡路文化会館
(淡路市)

不登校の子どもたちの理解と支援
～子どもへの寄り添い方、かかわり方のポイント～

小倉正義先生のご講演では、不登校の初期対応のあり方、身体症状の訴えにどのように向き合うか、登校刺激の与え方、不登校の子どもへの具体的な対応等についてご教示いただきました。参加者からは「不登校の子どもとどのようにかかわるのがよいのか、基本的な姿勢を学ぶことができた」等の感想が寄せられました。

班別演習・協議では、SGEを生かした仲間づくり、アイ・メッセージ、リフレーミングについて考えました。参加者からは「リフレーミングの難しさとその良さを実感できた。ユー・メッセージとアイ・メッセージの違いも感じる事ができた」等の感想が寄せられました。

「軌跡が奇跡を生み輝跡となる」



【講演】 名城大学
教授 曾山 和彦 先生
8/18 県立総合体育館
(西宮市)

教室でできる気になる子の支援
～発達障害が疑われる子の支援に向けて～

曾山和彦先生のご講演では、現代の子ども像や気になる子の理解の方法、ソーシャルスキル・トレーニングを活用しながら行う支援等についてご教示いただきました。参加者からは、「発達障害の子どもたちを含めて学級をどのように経営するか視点が分かりやすく、今後の実践に生かしたい」等の感想が寄せられました。

班別演習・協議では『「ほめる声かけ」で子どもに伝える』と題し、ペアレント・トレーニング・プログラムについて学びました。参加者からは「言葉だけではなく、視線や表情などにも気をつけ、子どもの変化をタイミング良くほめることが大切だと思った」等の感想が寄せられました。

「子どもの不安に向き合う支援を」



【講演】 神田外語大学
特任教授 小柴 孝子 先生
8/31 姫路市立総合教育センター
(姫路市)

登校刺激の与え方
～事例から見る対応とかかわりが行き詰まったときの次の一手～

小柴孝子先生のご講演では、登校刺激の与え方について、子どもの発達の視点から、あるいは教育相談や支援の視点からご教示いただきました。子どもの不安に向き合う支援をしていくことが特に重要であることが述べられ、「まずは子どもが何に不安を抱いているかを知ることが大切だと思った」という感想が寄せられました。

班別演習・協議では和やかな雰囲気の中で、子どもたち同士のつながりを深めるためのさまざまなプログラムを体験的に学びました。参加者からは「話の聞き方の研修ができてとても参考になった。ボディランゲージ、表情などを交えて話しやすい雰囲気をつくる事が大切だと感じた」という感想が寄せられました。

「伝える思いやりと熱心に聞く態度を」



【講演】立命館大学
教授 菱田 準子 先生
9/21 県立教育研修所
(加東市)

子ども同士が支援し合う「ピア・サポート」活動
～悩んだり困ったりしている仲間のつながりを育む方法～

菱田準子先生のご講演では、様々な体験的プログラムを通して、子ども同士が支援し合うピア・サポートの意義についてご教示いただきました。特に、「コミュニケーションは共同作業。伝える思いやりと熱心に聞く態度が重要」とのお話が印象的で、参加者からは、「子ども同士のつながりの大切さが分かった」「学級経営の土台から考え直したい」等の感想が寄せられました。

班別演習・協議では、ソーシャル・スキル・トレーニングやストレスマネジメントについてロールプレイ等を交えながら体験的に学びました。参加者からは「相手の気持ちを考えて自分の気持ちを伝えることが大切だと分かった」「受容されていることを感じる声かけは心地よかった」等の感想が寄せられました。

「まずは教師の自己開示を」



【講演・演習】
新見公立大学/新見公立短期大学
教授 住本 克彦 先生
9/22 丹波の森公苑
(丹波市)

クラスの中での人間関係づくり
～構成的グループエンカウンター (SGE) の演習を取り入れて～

住本克彦先生の、「人間は自己開示をした人に親近感を持つものである。自己開示は人間関係づくりにおいて非常に効果大きい。まずは教師の自己開示を」というお話が印象的で、参加者からは、「教師の自己開示の場面を作っていくことで子どもたちも自己開示しやすくなるのが分かった」等の感想が寄せられました。

演習では子ども同士が自己開示し合うための数々の構成的グループエンカウンターについて体験的に学びました。参加者からは、「グループワークを通して自己開示が進んでいくことを実感できた」「初対面の人でも親近感が湧いたので、クラスでも子どもたちが親近感を感じることができると感じた」等の感想が寄せられました。

「コミュニケーションスキルを育む」



【講演】神戸親和女子大学
教授 長谷川 重和 先生
11/20 県立但馬やまびこの郷
(朝来市)

不登校を出さない学級づくり
～コミュニケーションスキルを育むために～

長谷川重和先生のご講演では、不登校未然防止のためには、子どもたちのコミュニケーションスキルを育むことが大切であり、そのための具体的な教育的グループワーク等についてご教示いただきました。参加者からは、「生徒間コミュニケーションを育むことで他者理解を深めることにつながり、いじめをなくす一つの手段になるように感じた」等の感想が寄せられました。

演習ではコミュニケーショントラブルの未然防止のために、子どもたちにとって課題である「人とかわる力」を身につけるためのソーシャルスキルを体験しました。参加者からは、「コミュニケーションの苦手な子どもは大人の想像以上にエネルギーを使っていることが分かった」等の感想が寄せられました。

県立但馬やまびこの郷の事業について

(1) 4泊5日以内の宿泊体験活動

料理・スポーツ・製作など様々なプログラムを体験し、体を動かすことで子どもたちは変化していきます。初めて利用される場合は、緊張や不安の高い子どももいますので、まずは見学や1日体験からスタートされることをお勧めします。宿泊日数等についても、個々の子どもの状態に応じて柔軟に対応します。

(2) 教育相談

電話相談や来所相談、また所長によるカウンセリング（木、金）も行っています。ぜひ一度お電話ください。

(3) 指導者の研修

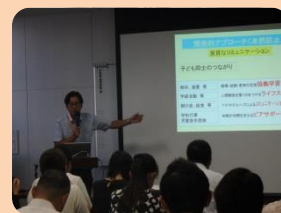
「公開講座」や「不登校に関する研修会」など、不登校の未然防止、初期対応を中心に、さまざまなテーマで研修会を開催しています。

また、各種研修（校内研修等）に指導主事を派遣し、未然防止の取組や子どもたちへのかかわり方について話をさせていただきます。

(4) センター的な役割

機関紙（「虹のかけ橋」教職員向け、「やまびこ」保護者向け）の発行や学校における「不登校の未然防止」についての調査研究を進めています。

適応指導教室を始めとする様々な関係機関がそれぞれの特長を生かしたかかわり方の中で、より効果的な支援に向けて活用いただくことができれば幸いです。



<連絡先>

県立但馬やまびこの郷

〒669-5135

兵庫県朝来市山東町森字向山 45-101 TEL(079)676-4724 FAX(079)676-4721